

# 広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]  
(平成21年6月解析分)

## 1 疾患別定点情報

### (1) 定点把握(週報)五類感染症

平成21年5月分(平成21年5月4日～5月31日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	521	1.13	1.10	↓	10	百日咳	41	0.14	0.10	↗
2	RSウイルス感染症	17	0.06	0.04	↓	11	ヘルパンギーナ	23	0.08	0.38	↑
3	咽頭結膜熱	126	0.44	0.62	→	12	流行性耳下腺炎	157	0.55	0.85	↘
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	563	1.95	1.62	→	13	急性出血性結膜炎	3	0.04	0.02	
5	感染性胃腸炎	2,125	7.38	5.69	↘	14	流行性角結膜炎	94	1.24	1.12	→
6	水痘	586	2.03	1.78	→	15	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
7	手足口病	10	0.03	0.58		16	無菌性髄膜炎	0	0.00	0.04	
8	伝染性紅斑	80	0.28	0.26	↘	17	マイコプラズマ肺炎	17	0.20	0.26	→
9	突発性発しん	163	0.57	0.56	↘	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

### (2) 定点把握(月報)五類感染症

平成21年5月分(5月1日～5月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	46	2.00	2.12	→	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	102	4.86	4.91	→
20	性器ヘルペスウイルス感染症	16	0.70	0.75	→	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	27	1.29	2.00	→
21	尖圭コンジローマ	13	0.57	0.71	↗	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.17	
22	淋菌感染症	21	0.91	0.81	→						

「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)  
報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

### 急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

**急増疾患** ヘルパンギーナ(6件 23件)  
**急減疾患** インフルエンザ(2,355件 521件)  
**急減疾患** RSウイルス感染症(58件 17件)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について,県内178の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	19～22	15～18, 23～25	
定点数	43	72	19	23	21	178

## 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	48	結核〔広島市保健所(19)、福山市保健所(7)、呉市保健所(6)、西部保健所(3)、西部東保健所(2)、東部保健所(7)、北部保健所(4)〕
三類	7	腸管出血性大腸菌感染症〔O157(5)(広島市保健所)、〔O111(1)西部保健所〕、〔O26(1)西部東保健所〕〕
四類	5	A型肝炎(2)(福山市保健所、北部保健所)、日本紅斑熱(2)(福山市保健所、東部保健所)、レジオネラ症(1)(広島市保健所)
五類全数	9	麻しん(3)(広島市保健所(2)、東部保健所(1))、アメーバ赤痢(2)(広島市保健所)、急性脳炎(1)(広島市保健所)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症(1)(広島市保健所)、梅毒(1)(広島市保健所)、破傷風(1)(福山市保健所)

## 3 一般情報

### (1) 新型インフルエンザ(インフルエンザA/H1N1)について

5月16日に国内で初めての感染者が確認された新型インフルエンザは、兵庫、大阪で学生を中心とした感染の広がりを示した後、全国の広範囲にわたり感染者が確認されており、国内の累計患者数は500名を超えています。

海外では、これから冬を迎え本格的なインフルエンザの流行期となる、チリやオーストラリアなどの南半球の地域において感染者の増加が報告されており、その動向が注目されます。

アメリカから帰国した男性について、6月9日に広島県内で初めて新型インフルエンザ患者であることが確認されました。

### (2) これからの時期に注意すべき感染症について

これから夏季に向けて、咽頭結膜熱(プール熱)、手足口病、ヘルパンギーナが流行する時期です。現時点では、いずれも過去5年の平均を下回っていますが、今後、注意が必要です。

#### 咽頭結膜熱(プール熱)

病原体 : アデノウイルス  
 潜伏期間 : 5～7日  
 感染経路 : 通常は飛沫感染ですが、経口あるいは経結膜感染もあります。  
 症状 : 発熱、頭痛、食欲不振、全身倦怠感、咽頭痛、結膜充血、眼痛等です。  
 予防方法 : 感染者との接触を避ける、うがいと手洗いの励行で、プールに入る前や出たときはシャワーを十分に行い、タオルの共用を避けることが大切です。

#### 手足口病

病原体 : エンテロウイルスやコクサッキーウイルス  
 潜伏期間 : およそ3～5日  
 感染経路 : 飛沫感染、糞口感染、水疱内容物の直接接触による感染があります。  
 症状 : 口腔粘膜及び四肢末に現れる水疱性の発疹が特徴で、発症者の1/3に軽度の発熱があります。  
 予防方法 : 排泄物の取扱いに注意することや手洗いの励行が重要です。

#### ヘルパンギーナ

病原体 : コクサッキーウイルス  
 潜伏期間 : およそ2～4日  
 感染経路 : 感染の初期には、咳などでのどから排泄されたウイルスによる飛沫感染によるものが多く、後に便からもウイルスが排出されます。  
 症状 : 発熱、咽頭痛、まれに流涎、頭痛、筋肉痛、発疹を認めることがあります。  
 予防方法 : 乳幼児のオムツの交換の際には、手洗いの励行を行うことと、洗濯物を日光で乾かすことなどです。